

流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 56	44	ヘルパンギーナ	↘ 38	47
咽頭結膜熱	↘ 8	20	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 128	121
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 52	38	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 326	241	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 16	8
水痘	↗ 9	7	細菌性髄膜炎	↗ 1	0
手足口病	↗ 34	27	無菌性髄膜炎	↗ 3	1
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 10	7	マイコプラズマ肺炎	↗ 14	11
突発性発疹	↘ 34	40	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- RSウイルス感染症

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

伝染性紅斑 : 山鹿  
流行性耳下腺炎 : 八代、山鹿

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	22	4	18	67	3	5	3	7	0	4	15	0	15	1	3	7	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	15	0	4	2	2	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	12	1	5	65	0	5	1	8	0	9	18	0	0	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	1	0	2	21	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	6	0	0	34	0	3	1	4	0	6	41	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	8	0	0	0	0	6	0	0
8 人吉保健所	0	0	0	1	12	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
9 有明保健所	0	4	1	13	85	1	2	0	5	0	1	13	0	1	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	0	11	0	10	18	1	4	3	2	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	2	3	9	1	11	0	4	0	7	8	0	0	0	0	0	0	0
計	0	56	8	52	326	9	34	10	34	0	38	128	0	16	1	3	14	0	0

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小児科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	56	10	13	22	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	8	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	0	0	0	2	5	9	10	4	8	4	2	6	0	2							
感染性胃腸炎	326	4	28	59	48	39	31	22	15	11	12	7	25	5	20							
水痘	9	0	1	2	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0							
手足口病	34	0	4	13	7	4	1	2	0	1	0	0	1	0	1							
伝染性紅斑	10	0	1	1	0	1	4	0	1	1	1	0	0	0	0							
突発性発疹	34	1	13	18	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	38	1	3	15	10	4	1	1	0	1	0	0	0	1	1							
流行性耳下腺炎	128	0	0	11	10	16	26	26	18	4	6	2	7	1	1							
眼科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	5	3	3	0	1	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	14	0	7	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1						
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						

流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症に注意しましょう

今週の流行性耳下腺炎の報告数は128件、定点あたりの報告数は微増で、依然として今年は報告数が多い状態が続いています。特に、八代地域では、先週の定点あたりの報告数は倍増で、9週連続で警報レベルです。

RSウイルス感染症が2週連続で増加しています。例年、秋から冬にかけて報告数が増加する傾向にあります。RSウイルス感染症は、乳児が感染する感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染するといわれています。特に、生後6か月以内の乳児がRSウイルスに初めてかかった場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので、生後6か月以内の乳幼児は、感染しないように注意しましょう。症状は、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快するといわれています。飛沫・接触感染が主な感染経路で、予防策は、流行期には赤ちゃんを入浴に連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いをきちんと行う、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する等です。

